

地域のお年寄りとふれあおう

特別活動 第3学年

珠洲市立大谷中学校・教諭

1 事例の概要

本校は、全校生徒27名の小規模校である。3年生は男子4名、女子4名、合計8名の学級である。小規模校の良さもあるが、小規模校であるがゆえに気になるところもある。

本校生徒の良い点として、友だちを思いやる心をもっていること、教師や友だちの賞賛を喜ぶ素直な心をもっていること、男女の仲がよいこと、自己肯定感が高いことなどがあげられる。今後伸ばしたい点としては、①根気よく作業を続ける忍耐力、②自分の係や役割をきちんと果たそうとする責任感、③集団への帰属意識の高まりと学級や学校に対する愛着などがある。

伸ばしたい点の①「忍耐力」は、教師の支援に甘えてしまうのではなく、生徒の自主性と自立性を育む環境を作ることが大切であると考え。②「責任感」は、固定化された人間関係の中で責任の所在をあいまいにするのではなく、個人の役割の大切さを実感することができる取り組みが必要であると考え。③「愛着」は、やらされる学級活動や生徒会活動ではなく、自分たちの学校を作ろうという気持ちをもって主体的に取り組む活動が必要であると考え。

そこで次の2つのことを仮説として、学級活動と生徒会活動に取り組んだ。

- ①学校や学級で一体感を味わうことができる体験活動を主体的に行うことにより、友達によさに気づき学級や学校に対する愛着が深まる。
- ②学校や学級で一体感を味わうことができる体験活動を主体的に行うことにより、忍耐力や責任感を育むことができる。

本事例は、学校近くにある「波の花デイサービスセンター」訪問への実践事例である。

2 実践内容

(1) 活動の目標

- ・ 波の花デイサービスセンターの訪問を自主的に計画し実践することにより、集団で取り組むよさを味わう。 [A学級活動(1)]
- ・ 社会の一員としてボランティアの意義を理解し、よりよい方法で自主的に実践する。 [A学級活動(2)]

(2) 指導上の工夫点(視点)

① 道徳との関連

道徳の時間にマザーテレサの活動について書かれた資料「あふれる愛」を扱って、人類愛について考えた。そして、道徳的価値の自覚化を図りながら、自分たちが地域でできるボランティアとして、「波の花デイサービスセンター」訪問を計画し、学級活動として取り組んだ。

② 相手の立場に立って考えるための工夫

2年時にわく・ワーク体験を「デイサービスセンター」で行った。その時に接したお年寄りの方のことを考えたり、職員の方の苦労を思い浮かべたりしやすいように、体験時の写真を提示し、所長さんのビデオレターを視聴した。

③ 主体的に取り組ませるための工夫

計画・準備・実践のすべてを通して生徒の自主性を大切にした。学級活動時間の後半は、学級会長の司会による学級会とした。生徒が自分たちで話し合っただサービスセンター訪問を計画するよう、場面を設定した。

また、デイサービスセンター訪問の準備では、生徒が互いに相談しながらも一人一役を担い、責任を持って取り組むことができるように、1グループ2～3人で編成し、3つのグループに分かれて活動するようにした。

B-1 指導計画

B-2 すごろく

B-3 福笑い

3 指導の実際

流れ	学習活動と発問	支援(★)と評価(◆)と指導上の留意点(●)
導入	1. わく・ワーク体験で活動した感想を話す。	●わく・ワークの写真を提示する。
展開1	2. 波の花デイサービスセンターの1日について想起する	●1日の活動が分かりやすいように板書する。
展開2	6. 活動内容を計画する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">どんな活動をしたらよいか具体的に考えましょう。</div> 7. 学級として取り組む内容を決める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">どんな活動をしたらよいでしょうか。話し合っ て決めましょう。</div>	●ワークシートを配付する。 ◆訪問の計画を立てることができる。 (ワークシート) ★近くの友達と話し合わせる。 ◆訪問の目的を考え、お年寄りが喜ぶ活動を選択している。(発言) ★疑問点を友達に説明させる。 ●話しやすいように座席を口の字型にする。(司会は生徒)

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 道徳と関連させることによって、相手の立場に立った言動の大切さを自覚し、デイサービスセンター訪問活動計画を考え、訪問時でも行動に移すことにつながった。福笑いやすごろくの道具作りでは、お年寄りのことを考えて大きく作ったり、持ちやすくしたりする等、主体的な取り組みとなった。その後の学校生活や係活動においても、相手の立場に立って考え行動する姿が見られ、よりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度が育ってきた。
- ・ 小グループに分かれて活動する場や、話し合う機会を用意したことで、友達の良さを再確認し、お互いの良さを引き出しながら取り組むようになった。その後行われた生徒会行事「大谷の海で遊ぼう」では、さらによりよい学校をつくらうという意欲の高まりが見られ、主体的に活動計画を立て、協力し合って準備・運営し、充実感を味わうことができた。
- ・ デイサービスセンター訪問では、責任の所在をあいまいにしていたために、当日予定していたゲームができないグループがあった。この失敗から計画性と責任を持つことの大切さを学び、その後の生徒会行事では役割分担表を作成するなど責任の所在を明らかにし、それぞれがしっかりと役割を果たした。一人一人が責任を持ったことで、学校は自分たちがつくるのだという自覚を持つことにつながった。

(2) 課題

- ・ 学級会の話し合いでは、学級会長の司会により進めさせたが、不慣れであったためまとめるまでに相当な時間を要した。話し合い活動を充実させるためには、話し合いの仕方や方法を学校として系統的に捉え、段階的に指導しておくことが必要である。
- ・ 生徒の実態把握が不十分であり、行動に対する見通しの甘さを感じるがあった。特別活動の目標と年間計画を、生徒の実態にあった内容に改善するとともに、社会の一員としての自覚を高める体験活動を充実させていかなければならない。

D-1 デイサービスセンター訪問の感想

D-2 大谷の海で遊ぼう